

物理的観測論と二人称的観測論

Physical Observational Discussion and Second-person Observation

渋谷仙吉 Senkichi SHIBUYA

山形大学理学部 Faculty of Science, Yamagata University

古典物理の世界は非人称の客観界であり、物理的認識の自我は抽象的な一般的不死の自我であり、個性と差別の人間界を彩るものは一切捨てられている。物理的観測において観測者は、大森論文「観測者は邪魔者」(1991)にみられるように消去される傾向もあり「物理観測は機械にまかせておけばよい」といった機械観測論もある。これに対し、人間科学などでは人称別のある世界、そして対話の世界を扱っている。この生の人間の世界での二人称的観測では観測者を消去することは不可能である。物理的観測と二人称的観測の相容れない観測問題を解明するために、観測論と認識論が不二の関係にあるとの立場に立ち、観測(認識)者とその対象との能動-受動の応答関係の視点から比較検討を行う。

まず観測に適応するかどうか模写的認識を検討し、次に西洋認識論を吟味する。その結果、従来から科学的認識と考えられていた唯物論的な模写的認識、三項図式の西洋認識論は観測の認識論として不適當であることが判明する。そこで、縁起的認識論に基づいて観測過程を考察し、観測要素を五つに分け、防犯カメラの事例から観測者が観測結果の判断する過程も含めるべきことを主張する。また、認識対象と観測対象を「もの」、「こと」、「ものごと」の三種に分類できることを示し、それぞれの種類に対応して観測の種類、認識の種類も分類されることも提案する。

縁起的認識は観測者から対象へ意識的に働きかけ、そのはねっかえりを受けて認識(観測)が成立するので、二人称的観測図式に適合する。従来の物理的観測図式は対象から観測装置、観測者への情報・視線の流れだけであった。観測者から観測装置、対象への視線・情報の流れを含めた物理観測図式の可能性を論じ、二人称観測図式との類似を示す。

----

Senkichi SHIBUYA

(渋谷仙吉)

Dep. Phys., Fac. Sci., Yamagata Univ.

(山形大学理学部物理学科)

1-4-12 Kojirakawa, Yamagata, 990-8560 JAPAN (990-8560 山形市小白川町 1-4-12)

TEL: 023-628-4551, FAX: 023-628-4567

e-mail: shibuya@sci.kj.yamagata-u.ac.jp